

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分  
 【発行日】平成30年2月15日 (2018.2.15)

【公開番号】特開2016-124733(P2016-124733A)  
 【公開日】平成28年7月11日 (2016.7.11)  
 【年通号数】公開・登録公報2016-041  
 【出願番号】特願2014-266389(P2014-266389)  
 【国際特許分類】

C 0 3 B 7/14 (2006.01)

C 0 3 B 11/00 (2006.01)

【F I】

C 0 3 B 7/14

C 0 3 B 11/00 B

C 0 3 B 11/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月25日 (2017.12.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上方に向かって拡張して開口する内部空間を有する成形型を用い、前記内部空間内で浮上成形によりほぼ球形にガラス塊を成形する成形工程と、

前記成形型を傾斜させて、前記成形型の内部空間から前記ガラス塊を前記成形型の下方に配置された収納容器に移送する移送工程と、を備える、ガラス塊の製造方法。

【請求項 2】

前記ガラス塊は、摩耗度が 400 以上のガラス材料からなる、請求項 1 に記載の製造方法。

【請求項 3】

前記ガラス材料はフッリン酸塩ガラスである、請求項 2 に記載のガラス塊の製造方法。

【請求項 4】

前記収納容器の少なくとも前記ガラス塊と接触する部分が、ロックウェル硬さが R50 未満の材料で形成されている、請求項 1～3 の何れか 1 項に記載のガラス塊の製造方法。

【請求項 5】

前記成形型と前記収納容器との間に、前記ガラス塊を搬送する搬送部材が設けられ、前記収納容器及び前記搬送部材は、少なくともガラス塊と接触する部分が、ロックウェル硬さが R50 未満の材料で形成されている、請求項 1～3 の何れか 1 項に記載のガラス塊の製造方法。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の方法でガラス塊を作製し、  
前記ガラス塊をプレス成形して光学素子を作製する、  
光学素子の製造方法。

【請求項 7】

上方に向かって拡張して開口する内部空間を有し、前記内部空間内で浮上成形によりほぼ球形にガラス塊を成形する成形型と、

前記成形型の前記内部空間から前記ガラス塊を収納容器に移送するように前記成形型を

傾斜させる成形型傾斜機構と、を備える、ガラス塊の製造装置。